

事業所の概要表

(平成 30年 5月 1日現在)

事業所名	グループホームやわらぎ川内					
法人名	有限会社 やわらぎ					
所在地	愛媛県東温市南方1787-2					
電話番号	(089)966-6413					
FAX番号	(089)966-6419					
HPアドレス	http://www.yawaragi-eime.com/					
開設年月日	平成 16 年 12 月 1 日					
建物構造	<input checked="" type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input checked="" type="checkbox"/> 平屋 ( ) 階建て ( ) 階部分					
併設事業所の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( )					
ユニット数	2 ユニット		利用定員数 18 人			
利用者人数	18 名 ( 男性 4 人 女性 14 人 )					
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	4 名	要介護2	2 名
	要介護3	7 名	要介護4	3 名	要介護5	2 名
職員の勤続年数	1年未満	2 人	1~3年未満	4 人	3~5年未満	4 人
	5~10年未満	2 人	10年以上	6 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 2 人		介護福祉士 7 人			
	その他 ( )		社会福祉士 1人 看護師 1人			
看護職員の配置	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( <input type="checkbox"/> 直接雇用 <input checked="" type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約 )					
協力医療機関名	藤本内科クリニック たかのご歯科					
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ( 看取り人数: 6 人 )					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	35,000 円					
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円					
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有					
食材料費	1日当たり	1,030 円	朝食:	230 円	昼食:	400 円
	おやつ:	0 円	夕食:	400 円		
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ( )					
その他の費用	水道光熱費	340 円	} 1日当たり			
	共益費	170 円				
		円				
		円				

家族会の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (開催回数: 回) ※過去1年間		
広報紙等の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (発行回数: 回) ※過去1年間		
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6 回 ※過去1年間	
	参加メンバー ※□にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者	<input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 <input type="checkbox"/> 評価機関関係者
		<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員	<input checked="" type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣の住民
		<input checked="" type="checkbox"/> 利用者	<input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員 <input checked="" type="checkbox"/> 家族等
	<input type="checkbox"/> その他 ( )		

# サービス評価結果表

## サービス評価項目

(評価項目の構成)

### I.その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

### II.家族との支え合い

### III.地域との支え合い

### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成30年7月17日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	14	(依頼数)	18
地域アンケート	(回答数)	5		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

#### ※事業所記入

事業所番号	3871500025
事業所名	グループホームやわらぎ川内
(ユニット名)	A棟 (ぽっかぽかの家)
記入者(管理者)	
氏名	大本 邑樹
自己評価作成日	平成30年 6月 25日

<p><b>【事業所理念】※事業所記入</b>                  一、かけがえのない人生の終盤期を住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう支援します。                  一、人間としての尊厳を大切に、自己決定権と個性の尊重に努めます。                  一、毎日がイキイキ・ワクワクと過ごせるよう工夫と努力をします。</p>	<p><b>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入</b>                  ◎虐待及び、拘束防止について、全職員が周知徹底する                  全職員に虐待及び身体拘束の手引きを配り、全員参加の研修会を開く。やむを得ず参加できない場合は個別に学びの場を設ける。⇒毎月第3火曜日にある職員会議を利用し、最後に30分時間をとり手引きを全員で読んでいった                  ◎現在の ご家族様の希望等を把握し、情報収集した上で、より良い支援に繋げる                  会う事のできるご家族様には、あらかじめ希望等をお聞きし、会えない方にはアンケートで情報を収集する。                  ⇒ご家族様全員に、将来、いざという時に、看取りか、救急搬送か、その他、どのような希望があるかをアンケートし、全員の                  ご家族様から希望が聞けた。しかし、それ以降は聞いていない。また、頻繁に会えるご家族様とは直接情報集めていくが、日々、変化している希望に対し、細かい気持ちが把握できていないことがある。</p>	<p><b>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</b>                  職員会議時には毎回、虐待及び身体拘束の手引きを読み、職員間で理解、共有している。                  職員は、穏やかな口調、表情で対応していた。花札を一緒に楽しんだり、新聞を広げて高校野球の記事をともに読むなど、さりげなく寄り添っている場面が多くみられた。                  代表者は、職員会議や運営推進会議に出席し、職員の話の聞いている。                  成長著しい職員を顕彰する制度があり、今年は事業所からも1名選ばれた。</p>
--	---	---

**評価結果表**

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>										
<b>(1) ケアマネジメント</b>										
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	利用者の側に寄り添い、話を聞くようになっているが、思うようにいかない事もある。散歩に行きたいと言われる利用者には、行くようになっているも雨の日や職員が少ない時は無理な事もある。	○		○	入居時及び介護計画見直し時期に、気持ちシートを用いて生活上の希望、今の不安や苦痛、楽しみなどの情報収集を行い、把握に取り組んでいる。日々のかかわりの中で得た情報は、個別記録に記入している。	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	把握が困難な場合、ご家族や職員と検討しているが、職員本位に検討してしまいう時もある。					
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	御家族が来られた際、利用者が入所前や昔何が好きで、どのような事が好きだったかを聞くようになっている。					
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	利用者が言われたことなどを個別に記録しスタッフ会にて共有している。					
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	留意はしている。ただ、座っている事が苦手な利用者さんに対し行事のため声掛けを行うも、直ぐに帰ろうとされ、本当は参加したくなかったのではないかとと思う事がある。					
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時にご家族やご本人様に聞いており、現在でもお話を聞いている			○	入居時、家族や利用者から聞き取った、生活歴や性格、趣味、好きな食べ物、本人や家族の主訴などを基本情報シートに記録している。	
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	洗濯物たたみや、行事、もやしの根とり等料理の下ごしらえなどを通して把握に努めている。					
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	利用者さん一人一人に対し、個別に記録をとり全職員に送り把握に努めている。また、なぜそのような状態になったかを検討し、御家族や対話できる利用者に対しては、直接聞いていたりしている。					
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	利用者さん一人一人に対し、個別に記録したり全職員に送り把握に努めている。また、なぜそのような状態になったかをスタッフ会等検討し、御家族や対話できる利用者に対して直接聞いていたりしている。					
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	利用者さん一人一人に対し記録をとり、全スタッフで共有し把握に努めている。					
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	記録も基にスタッフ会で話し合い検討している。又、対話が可能な利用者さんに対しては、直接聞くようになっている。			◎	毎月の職員会議時に、利用者一人ひとりについて担当職員が作成したモニタリング表を基に全職員で検討している。	
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	記録を基にスタッフ会で話合ったり、担当の職員やご家族と話合ったり、対話が可能な利用者さんに直接聞き検討している。					
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	検討した内容に基づき、個別支援という形でやっている。					
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	スタッフ会や、御家族の話も聞き特別支援という形で反映している。					
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	ご本人様、ご家族に職員の立てたプランを見ていただいている。	○		△	利用者や家族に聞き取り、介護計画の意向欄に記入しているが、具体的な意見は少なく「お任せします」という家族も多い。「散歩が好き」「自宅が気になる」という利用者の希望を反映した事例があった。	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の方でも寝たきりの状態にならないよう、出来るだけフロア等で過ごせるようプランを立てている。					
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	不定期に歌の会を地域の方が開いてくださったり、ご家族の都合のいい日にお散歩を行うプランを立てている。					
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	月に一度の職員会議で介護計画の話合いを行っており、ノートにもどのような事を話し合ったかを記録している。			◎	日々の個別記録に、介護計画の内容を記載し、職員間で理解、共有している。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	職員会議で話し合いのノートに記録している。又、そのケアに則り日々の支援を行っている。			◎	個々の利用者の担当職員が1ヶ月ごとにモニタリング表を用いて状況確認を行い、職員会で話し合い、日々の支援につなげている。	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	毎日個別に記録し、その日いなかったスタッフには後日送りを行っている。			○	個別記録に、言葉や「笑って手を振られる」「手が少し震える」など、具体的に記録している。	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	毎日個別に記録し、気づき・アイデアは連絡ノートに記録している。			○	職員会議録や連絡ノート、グループホーム日誌に記録している。	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	見直しを行い、月に1回スタッフ会にて報告を行っている。			○	毎月の職員会議時に、利用者一人ひとりの介護計画の期間を確認している。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月1回スタッフ会にて報告を行い現状確認を行っている。			◎	毎月の職員会議時に、利用者一人ひとりについて話し合い、状況確認を行っている。	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化があった場合すぐ家族に報告し、新しいプランを作成している。			○	状態変化時や入退院時などには、家族と話し合い、新たな介護計画を作成している。	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	△	月1回スタッフ会で話し合うも緊急案件がある場合には、施設長、看護職と話し合いは行うも会議は行っていない。			◎	月に1回、ユニットごとに職員会議を開催している。緊急案件がある場合には、話し合いの場を持ち連絡ノートに記録している。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	会議では司会と記録を毎月変え、意見が言えるよう話を振ったり、その場が固くならないよう工夫している。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	会議の日を毎月第4水曜に固定して開き、休みや明けの職員も参加している。又、遅出や夜勤の職員も担当の利用者様の状態を報告し後日スタッフ会ノートを見ていただいている。					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	スタッフ会ノートを作ってあり、その日の内容や話し合ったこと記録している。			△	議事録を作成し、出席者の名前を記入している。欠席者には、管理者が読んでおくように促すことにとどまっている。	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	スタッフ会にて具体的に検討しスタッフ会ノートに記録し共有している。			○	家族とのやり取りなどは連絡ノート、連絡ファイルに記入して共有し、サインをするしくみをつくっている。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝えるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	日々申し送りをし、重要な案件は連絡ノートに書き全職員に伝えるようにしている。	◎				
<b>(2) 日々の支援</b>										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	把握しかなえる努力は行っているも、一人一人に対応はできていない。				その日の洋服を選んだり、1日に2回実施している体操をラジオ体操とテレビ体操から選んだりできるよう支援している。誕生日のメニューには、利用者本人が好物を選ぶように支援している。調査訪問日の昼食のから揚げに、醤油をかけるかどうか個々に聞いていた。	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自己で判断する場を設け、利用者様本人に選んでもらえる機会を作っている。			○		
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	その都度声掛けを行い、納得した暮らしが出来るよう支援している。					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	一人一人のペースなどを大切にしていきたいが、職員の都合に合わせてしまう事が多い。					
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者様一人ひとりに合わせた言葉掛けを行い、良い表情や雰囲気づくりに努めている。			◎		昼食後、一人ひとりの利用者に話しかけながらランチオンマットを集めている利用者に、職員はお礼を言っていた。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	重度の方でも少しの反応でも見逃さず、ご本人の意向に少しでも添える支援を心がけている。					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	日々の言葉づかいに気を付け、尊厳を傷つけないよう利用者の気持ちを考え対応している。	◎	○	○	新人研修の際には、「人間としての尊厳を大切に、個性の尊重に努めます」という事業所の理念に基づいて「やわらぎで大切にしていること」について学んでいる。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	ほとんどの職員はできているも、中には大きな声で話、特定の利用者様を多く対応している職員もいる。			◎	職員は、穏やかな口調、表情で対応していた。花札と一緒に楽しんだり、新聞を広げて高校野球の記事をともに読むなど、さりげなく寄り添っている場面が多くみられた。	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	ほとんどの配慮しているも、中には大きな声で介助を行っている職員もいる。					
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	必ずご本人様に声掛け、ノックを行い訪室している。			○	入室前に、利用者「お部屋見せてもらっていいですか」と声をかけてから入室していた。	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	職員全員が守秘義務を守っている。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	介助される、介助するの立場ではなく利用者職員が互いに尊重し協力しあう関係性を持っている。				仲の良い利用者が一緒にテレビを見たり、肩を揉み合ったりする様子を職員は見守っていた。ユニットによっては、トラブルになりがちな利用者の食事時間をずらして支援していた。散歩好きな利用者二人と一緒に散歩できるよう支援している。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者様同士が会話や助け合えるように、職員が間に入ったり、見守りを行い支え合って暮らせるよう支援している。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする。孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらつ場面をつくる等)。	○	利用者様同士が会話や助け合えるように、職員が見守りを行いながら支え合って暮らせるよう支援し、トラブルになりかけたら間に入れるようにしている。			◎		
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルにならないよう、職員がいち早く気づき未然に防いだり、間に入り安全で穏やかに暮らせるよう支援している。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入居時にお話しをお聞きしている。又、現在もご本人様やご家族の方に日常会話の中から把握し、記録として残し職員で共有している。				/
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入居時にお聞きし、現在も日常会話の中でお聞きし、記録に残し職員で共有している。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	友人・知人が会いに来られる事はあるも、馴染みのある場所にはご家族の方がたまに来られお連れするぐらいである。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	いつでもこれらようフロアを解放しており、居室でも話せるよう利用者様に合わせ、対応できるよう心掛けている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	希望があれば行っているも、職員の都合に合わせている事が多い。又、希望や行事が無い場合や、利用者さんで外出するのが嫌いな方は一日室内で過ごされている利用者さんもある。重度の方はベランダに数分出る事はある。	△	○	○	近くのお堂まで日常的に散歩している。また、季節ごとに花見やそうめん流しなどに出かけており、その様子を運営推進会議で報告している。法人の農園のミカン狩り、事業所の庭の芋ほりや買い物などを楽しめるよう支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	地域の方に協力して頂き畑に見に行かせて頂いたり、春にはお花見を行い、夏にはみかん狩りを行ったりしている。				ウッドデッキでひなたぼっこをしたり、庭にテントを張って、手作りのお弁当を食べながら、桜やコスモスを楽しんだりしている。
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	ベランダに出て日光浴を行ったり、庭先でお弁当を食べたりしている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	不定期にだが、ご家族の方が外出にお連れしたり、庭でお花見を行っている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	BPSDについて正しく理解し、一人ひとりの状態の変化や症状を取り除く努力をしている。しかし、認知症の方でも精神疾患の強い方だと、今までよかつた対応でも気分がムラによって気分を害されることもあり、対応に困る場合もある。				
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	身体面の機能が少しでも維持できるよう、日常の中やご本人様の趣味や好きなことを遠いし少しでも維持できるように支援している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	△	「できること、できそうなこと」については、なるべく手や口を出さないようにしているも、利用者様が求められたらでてしまう。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	一人ひとりが有する力を把握しており、洗濯物たたみや食器の片づけなどを行って頂いている。				近隣の中学校の車いす贈呈式では、利用者代表が感謝状を読みあげ、盛大な拍手をもらった。歌の会の際に司会をしたり、柿の皮をむいて干し柿づくりをしたりできるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	一人ひとりがご自分の役割を理解しており、声をかけたり、声がかかる前にご自分からお手伝いをして下さる方もいる。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中では役割や出番、楽しみが持てる支援は行えていない。				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	ご本人の意思にて着て頂いている。また重度の方にも服をみて頂き意思確認を行っている。				昼食時には、食卓の上にテッシュケースを置き、さりげなく手渡していた。皆それぞれにきれいに整容しており、似合う洋服を着ていた。好みの帽子をかぶっている人がいた。  毎日着替えを行い、清潔に過ごせるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	持ち物や服などはご家族の方に以前から持っている物を持って生きて頂いている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	ご本人の気持ちに添うよう声掛けで、アドバイスをしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	季節によって服装は変えているも行事などでの服装は外出用の物を着ている事が多い。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	髭は定期的に剃るようしており、服の汚れ、食べこぼし等の汚れはその都度気を付けている。汚れた場合には利用者さんに声掛け確認を行い、居室などプライバシーが守られる場所を着替えなどを行っている。	○	◎	◎	
		f	整容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	利用者さんから希望が無く、スタッフが散髪を行っている。希望された場合のみ違うお店にて散髪を行っている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	服装、髪形はご本人の意思を確認し行っているが、工夫は行えていない。			○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事は利用者さんの生活で大切な事なので重要視している。野菜嫌いな利用者さんがいた場合すべてではないが他の物と混ぜたりと工夫している。				当日の調理担当職員が冷蔵庫の食材をみて、利用者の希望も取りながら手づくりしている。米は地域の契約農家から入手している。もやしの根取りをしたり、ランチョンマットの回収をする利用者があった。  例えば、そばアレルギーの人には、うどんにするなど代替品を提供している。家族や地域の人から届いた旬の食材も活かしながら、季節感を大切にしたり、食事をつくっている。当日のポテトサラダは、事業所の畑で収穫したジャガイモを使用していた。  箸、茶碗、湯呑みは自分のものを使用している。白飯の量が分かりにくい利用者には、黒い茶碗を使用していた。  職員は、利用者と同じものを食べながら、食がすすむよう声かけしたり会話をしたりしていた。  居間から、調理の音や匂いなど、様子がよく見える。毎日、昼食介助に来訪する家族があり、職員はゆっくりした態度で一緒にサポートしていた。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	献立を聞いて、もやしの根とり果物の皮むきなど出来る子はして頂いている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	もやしの根とりや果物の皮むきを行って頂いている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	把握し、記録に残している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	秋には筍、冬にはおでんや温かい物、春は山菜、夏は夏野菜や、そうめんなど旬のものやその季節に合った食べ物を提供している。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	△	煮込んだりする料理には時間をかけ、柔らかくしている。肉等加熱したらかたくなる食材には固くならないよう生姜を入れたり工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等を使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	握みにくそうにされている利用者さんには取っ手のついている物を使用したり、お箸には滑り止めのついたものを使用している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一つのテーブルに最低一人は職員が付き、サポートできるようにしている。大人数で食事をするのが苦手な利用者さんには時間をずらし提供している。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音や匂い、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	利用者さんと同じ空間で調理しており、見た目なども工夫している。		○	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	△	食事を摂られなかったりした場合は栄養補助食品(メイバランス・エンシュア等)にて補助を行い、確保できるようにしている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	朝とおやつ時間に珈琲やレモンティーなど飲みやすい物を提供し脱水を起こさないよう取り組んでいる。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	献立表を作り、料理が被らないようにしている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食材は2日に一回ペースで買い出しに行き、調理の際も生の食材は新鮮なもの以外は出さないようにしている。				
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	運営推進会議にて協力医に口腔ケアの重要性の研修を行って頂き職員が把握できるよう努めている。				最近入居した数名の利用者以外の人は、訪問歯科医が作成した「お口の健康状態のお知らせ」にて、虫歯・歯周病の有無、入れ歯の調整の必要性、粘膜の異常、舌の汚れ、食物残渣などについて把握している。歯科医の「口腔ケアのマネジメント計画書」に従って、口腔ケアに取り組んでいる。  毎食後、声かけ誘導して支援している。洗口液ですすぐ際、職員は1〜20まで数えて、しっかりとすすげるよう支援していた。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	月に2回訪問歯科を行っており、御家族の許可を頂いている利用者に関しては把握している。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	協力医に口腔ケアの研修をして頂き学んだ事を取り入れている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	△	ご自分で行えない場合はスタッフが代行し、出来る利用者さんはスタッフ声掛けで行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	△	食後口腔ケアはスタッフが声掛けを行なっている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	△	ご家族に許可を頂いている利用者さんはみて頂いているも、許可を頂いていない利用者さんはスタッフの確認を行っているのみ。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解できている。出来るだけ紙パンツやパッド等を使用しない支援を行っている。				毎月の職員会議時に排泄状況の確認を行い、検討し見直している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解できている。-3日目よりマグミットやラクソベロンを使用し排便を行っている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	介助が必要な方のパターンは把握しているも、ご自分で行かれる方の量は把握出来ていない。兆候などは記録や職員間で共有しておりある程度は把握できている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	月に1度おむつの必要性・適切性を話し合い、急な変更には連絡ノートに記入し全職員が周知するようにしている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	看護職・協力医に相談し原因はないか話し合っている。改善できるものがあれば、個別支援等を通して支援を行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々に合わせ声掛けや誘導を行っている。又、羞恥心などが強い方には違う話をしたり、同性の職員が対応したりと尊厳を損なわないよう行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方向的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	紙パンツ・パッドを使用する際はご家族とご本人とお話しを行い使用する旨を伝えている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	下着などはご家族の方に頼み、おむつはやわらぎで固定したものを使用している。ご本人又はご家族の方が違うものを使用したいと言われた場合も個別に用意している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	毎朝食後ヤクルトを飲んで頂いたり、運動が好きな方はお散歩にお連れし自然な排便が出来るよう工夫している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	拒否された方や、自ら入浴を希望された方は出来る限り希望を取り入れているも、時間帯や曜日などは職員が決めて待っている。	◎			3日に1回、午後に入浴できるよう支援している。入浴剤を使用したり、ゆず湯、しょうぶ湯を楽しんだりしている。重度の利用者も、二人介助で湯船に浸かれるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	香りがいい、入浴剤を使用し、ゆったりと入浴できるように支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	手すりや滑りにくい造りになっており、出来る限りご本人の力だけで入浴できるようになっている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	拒む方は、後日入浴を促したり時間をずらしたりしている。原因や理由が理解できている際は、声掛け等を行い出来るだけ負担のないよう支援を行っている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前には血圧と脈拍計り、異常はないか確認している。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	日々の睡眠時間を個別に記録しており理解している。				散歩や日中の活動を取り入れながら、減薬につなげた事例がある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	個別に記録を行い、生活リズムを確認し原因を探れるようにしている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の軽い運動などを行ったり、協力医や看護職の方と相談している。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	眠たそうにされていたら、少し休むよう声掛けを行い居室にお連れしている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	寂しそうにされていたらご家族と相談し、手紙を書いたり電話できる対応がされている。				対角線
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	手紙が書けない、電話をかけられない場合スタッフが間に入り少しでも手助けできるよう支援を行っている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	ご家族とお話しがしたいと、言われたら職員から声掛けを行い可能なら電話できるよう支援している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙などがご家族から届いた際は、利用者様にお見せし希望があればお返事を書くよう促している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	利用者様・ご家族の希望があれば相談を行い許可を頂いている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解している。				/
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	事業所で保管をしており、必要であれば職員同伴で買い物をしている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	日常的に買い物などを行っていないため、他店と協力関係は結べていない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	入居時に他利用者とのトラブルにならないよう保管するよう伝えている。ご家族の希望によりあまり使用される支援は行っていない。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時にご家族やご本人に説明を行っている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入居時にご家族、ご本人とお話し納得していたしている。又、変更があればその都度ご家族・ご本人とお話している。				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	個別支援という形で支援している。	◎			○ 衣替えのために、職員が付き添って自宅に帰り支援した。入院中、事業所の車いすを貸した事例がある。
<b>(3) 生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	建物周囲に季節の花を植え明るい雰囲気が出るようにしている。	◎	◎	◎	各ユニットは、それぞれ独立した平屋で、庭や畑は整備され、玄関前には松や庭石が配され、プランターに季節の花を植えている。庭先で犬を飼っている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていないか等。)	○	キッチン周りには小物・観葉植物を置き、玄関や室内には季節のお花などを飾っている。また、季節によっては天井や柱に飾りつけを行っている。	◎	◎	◎	○ 玄関や居間には随所に観葉植物や季節の花を飾っている。開放的な居間は天井が高く、天然木の大きな梁がめぐらされている。テレビの前のテーブルを囲むようにソファを配置して団らんの間をつくらせている。小上がりの畳コーナーでインコを飼っている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	トイレには芳香剤を置き、掃除も毎朝職員が行っている。又、掃除機のような大きな音の出るものはあらかじめ利用者さんにお断りをお願いしている。			◎	○ 吹き抜けの共用空間は、天窓から自然光が差し込み、日よけで調節していた。天井扇や空調設備、日々の行き届いた掃除など、心地よい環境となるよう配慮がなされている。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節ごとに花を活け、季節の新鮮な野菜や山菜を頂いた際には利用者に見せたり料理に使っている。又、夏には近くで花火大会があるので玄関先で見られている。				○ 事業所前には青田が広がり、窓からは四季折々の自然の様子が見られる。元旦にはウッドデッキに出て、石鎚山のご来光を拝む人もいます。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	利用者さんが思い思いに過ごせるよう仲のいい方と話されており危険性が無い限り見守りの身を行っている。又、寂しそうにされている利用者さんがおられる際はスタッフが声掛けを行っている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	トイレは仕切りがあり、トイレ前には暖簾がかかっており共用空間からは見えないように工夫している。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	ガーデニングが好きで入所前にはガーデニングを行っていた利用者さんには、ご家族と相談し居室から見えるところにお花を植え、鑑賞もできるように工夫を行った。	◎			○ テレビやタンスを置き、家族写真や誕生日に家族がプレゼントした花、好きなスターの写真などを飾っていた。転倒予防のために、床に厚めのマットを敷いている居室もある。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	居室前には利用者のネームプレートを設置し、トイレや浴室にはわかるよう書かれている。又、建物内部には手すりが設置してある。				○ 車いすを自走したり、歩行器を使ったりして好きな場所に移動できるよう、物品の配置に配慮している。ユニットによってはゆのれんを掛けている。大きくトイレ及び矢印を表示している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	トイレにはトイレと書かれた紙を貼り、お風呂には湯と書かれた暖簾をしている。又、職員もその都度声掛けを行い、フォローしている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	居室には利用者さんの馴染みの者を持ってきていただき、ご自分でいつでも取れるところに置いている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人もたらす印象のデメリット等)	○	居室には鍵を掛けず、玄関も日中は解放している。	◎	◎	◎	○ 玄関は日中施錠しておらず、網戸にしていた。職員会議時には毎回、虐待及び身体拘束の手引きを読み、職員間で理解、共有している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	過去に言ってきた方はいないが、言われた際には話し合えるようにしている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくても済むよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	職員がいる空間近く出入り口があり、開けられた際はわかるよう音が聞こえるようにしている。				
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	利用者の個人情報記録し保管し、入所時に確認を行っている。				/
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	異常やいつもと行動が違う場合、普段の状態は個別記録として記録している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	関係は築けている。協力医に連絡できない場合も看護職に直ぐに連絡できるよう連絡網が出来ている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	協力医がいるため基本はそちらで診て頂いているが、大きいけがや病気にしては紹介状を書いて頂きご家族の方が希望された医療機関に見て頂いている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入所説明の際にどの医療機関と協力しているかご説明している。又、協力医に会って頂きご説明して頂いている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院の仕方はご家族と話し合い行っている。受診結果の報告や結果に関する情報の伝達はその都度連絡を行い、必要であれば検査結果をお渡ししている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	医療機関に対し、その利用者の性格や生活の書かれた資料を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	定期的に病院に職員が赴き、又、病院関係者からの連絡を頂き情報交換を行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	緊急時に備え、対応マニュアルを作り救急隊への情報提供表を準備している。又、協力医にすぐに報告できるようにしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	日常の関わりの中で変化があればすぐに看護職の者に相談している。又、看護職の者と連絡がつかない場合協力医に相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	看護職の者と相談できる体制ができています。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日頃の健康管理は毎朝バイタルチェックを行い、状態変化があれば看護職の者に相談している。又、看護職の者が対応できない場合協力医に相談できるようにしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	服薬所法は職員がいつでも確認できるところに保管しており、薬が新しくなる時には確認している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	利用者ごとに朝・昼・夕・就寝前と分け、服用前には日付・名前を確認を行うようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	新しい薬が出た場合には早く1週間、長くて1か月様子観察を行い異常があれば看護職又は協力医に相談を行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	新しい薬が出た場合には、ご家族に確認を行い経過報告を手紙としてお送りしている。又、急変がある場合にはその都度協力医・看護職・ご家族に報告している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化した場合にはご家族・協力医と話し合いを行い意思や意向確認を行っている。又、看護職・協力医が見取りが必要な可能性がある場合には、ご家族と相談し方向を検討・共有している。入居時や定期的に見取りを行うか、医療機関に任せるかアンケートを取っている。				目標達成計画に取り上げ、緊急時事前確認書を作成し、家族の意向、本人の意向をアンケート調査した。この1年で2名が事業所で最期を迎え、本人、家族の「事業所で看取ってほしい」という意向に沿って支援した。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	[重度化に係る指針]に基づき、協力医・ご家族・職員で共有し、ご家族には同意書もいただいている	○			
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	看護職・協力医と話し合い、支援の方針を見極めている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居時に対応・方針の書かれた情報をお渡しし説明を行っている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	入居時にご家族や協力医にどのような支援を行っていくかを話し合いを行っている。又、状態変化があればその都度話し合いを行っている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	相談があれば話し合い支援を行っている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	法人内で研修を行い、対応策を学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	法人内で研修を行い、マニュアルも作成し体制を整えている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	市役所や包括からメールで情報が送られ、インターネットでも情報を取り入れている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	市役所や包括からメールで情報が送られ、協力医に相談し対応している。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	汚物・排泄処理の後、外から中に入る際は手洗いをしている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	職員・ご家族で相談し合い、お互いに協力し合いながら利用者様を支えていくよう心掛けている。				事業所の夏祭り、誕生会、運営推進会議には案内状を送っている。昨年の夏祭りには、ほとんどの家族が参加した。介護計画に家族の協力を採り入れているケースもある。  月に1度、個々の担当職員が手書きの手紙で、利用者の暮らしぶり(写真付き)を報告している。メールでやり取りしたり、法人のブログを読み、感想を述べたりする家族もいる。  運営推進会議時、行事や人事異動、AED設置などについて報告しており、議事録は全ての家族に送付している。  前回の外部評価実施後、家族にアンケートを取り、関係づくり力を入れて取り組んだ。調査訪問当日には、3家族の来訪があり、職員から声かけしたり、お茶を出したりする様子がみられた。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	ご家族が訪れやすいよう、フロアの椅子を提供し、湯茶は職員がお出ししている。宿泊は希望があれば行えるよう対応している。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	散歩・外出などは支援としてご家族と相談を行っている。又、行事がある際は案内状をお送りしている。	◎			
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。[「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等]	○	ご家族が来訪された際は報告を行い、月に1度お手紙でも様子等も伝えている。	◎			
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	よく来訪されるご家族にはその都度報告を行い、あまり来訪されないご家族には電話での報告を行っている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	ご家族・利用者様の今までの関係を把握し・理解し、より良い関係を築いていけるよう努力している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議にて報告し、その議事録をご家族にお送りしている。		○		
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	年に一度の夏祭りが、一部の利用者様が食事に年に数回行かれるのみで、機械は少ない。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	今後起こりうるリスクを説明し、時には協力医にも来ていただき、ほとんどのご家族には納得して頂いている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	○	来訪された際には必ず会話をしている。又、あまり来訪できない方には定期的に近況報告のお手紙をお送りしている。				
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	資料などを用いて管理者立会いの下、説明を行って理解、納得を得て行っている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退去される理由、退去先の情報を具体的に説明し、納得された場合、退去先へ利用者の情報をお渡ししている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	入居時に具体的な説明を資料を基に行っている。				
<b>III. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	改めて説明する機会は作っていない。地域の方と会う機会などには説明している。(運営推進会議等)		○		近くの教会や介護施設と行事の際など、相互交流している。 秋祭りには、地域の子供たちが郷土の踊りを事業所前で披露してくれ、利用者がお礼にお菓子などを手渡している。 町内清掃には、職員2名が参加している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	町内清掃、お祭り等の参加、日常的な挨拶は行っている。		○	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	ご自宅で植えている花や野菜を持ってきてくださったたり、散歩の際挨拶して下さる方は増えた。				
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	事業所の庭で飼っている犬がおり、なでたり身に來られている。又、地域の方の紹介でコーラスなどをしてくださる方もいる。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	散歩の際、畑や飼っているヤギを見たり、触ったりしていいと声をかけてくださる。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	歌の会などをしてくださる方もいるが一部の方に偏っている。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域資源を生かし、出来るだけ豊かな暮らしを楽しめるよう努力している。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	消防署との協力は行えているも、他の施設との協力関係はあまり行っていない。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	利用者や地域の方の参加はあるもご家族の参加はない。	○		○	毎回、利用者、民生委員、地域の人の参加はあるが、家族の参加回数はやや少ない。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	A棟・B棟の代表者が報告している。			○	利用状況や職員体制、ヒヤリハット事例、利用者の健康状態、行事などを報告している。外部評価実施後には、評価結果、目標達成計画について口頭で報告している。	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	法人内の会議や研修で行ったこと、学んだことを報告している。又、外部の研修等を行ったことも報告している。			◎	△	ここ1年、参加者からの意見や提案は少なく、取り組みに活かすまでには至っていない。いろいろな意見や提案などを引き出せるよう、会議に工夫してほしい。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫している。	○	日程と時間帯は固定されているも、テーマによっては、案内状を作り送っている。				◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	運営推進会議に参加された方にお渡ししている。又ご家族の方にも郵送している。					
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	法人の理念に基づき、イキイキ・ワクワク利用者様が過ごせるよう、全職員が共通して認識している。					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	一部の「毎日がイキイキ・ワクワクと過ごせるよう工夫と努力をします」と言う分かり易い部分を伝えている。	○	○			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	代表者は、全職員に対し、直接ではなくても、施設長、ホーム長、管理者に指示をだし、法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	職員一人ひとりに必要な教育や学習ができるよう、研修やセミナーがある場合は、参加できるようシフト等考慮している					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	常に、どうすれば管理者や職員個々のやりがいや、向上心を持って働けるかを考え、職場環境・条件の整備に努めている					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	同業者が集まるセミナーに参加し、グループワークによる勉強会で交流を図っており、相互研修にも参加し、職員の意識向上をさせるよう取り組んでいる					
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	仕事とは別に、管理者や職員のストレスを軽減するため、法人内で親睦会を開いたり、「著しく成長した職員」をえらび意見交換することで、よりイキイキ・ワクワクと仕事をするための環境づくりに取り組んでいる	○	◎	○		代表者は、職員会議や運営推進会議に出席し、職員の話も聞いている。法人で、親睦会を催している。成長著しい職員を顕彰する制度があり、今年は事業所からも1名選ばれた。
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	入社時に新人研修にて学び、理解に努めている。又、法人内でも研修に取り入れている。					
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	チェレンジシートを記入して頂き、1ヶ月に一度話し合いの場を設けている。					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	不適切なケアを発見した場合、利用者様の安全を第一に考えている。又、問題を明確にし解決することを理解している。				◎	法人内で、身体拘束適正化検討委員会を立ち上げ、内部研修を行い、勉強している。職員は、不適切なケアを発見した場合は、管理者に報告し、話し合うようになっていることを認識している。
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日々職員とコミュニケーションを測り、心身に異常が無いかに注意を払っている。					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員は「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	理解しており、マニュアルを作り職員が閲覧できるよう保管している。又、利用者に危険があり拘束が必要な場合、ご家族と話し合い同意書を書いて頂いている。					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	月1回職員会にて拘束・グレーゾーンに関する資料と照らし合わせ、話し合いを行っている。又、定期的に研修も行い学んでいる。					
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	ご家族と話し合い、理解を頂き、身体拘束を行わないケアを行っている。又、それでも緊急やむを得ない場合、その都度同意書を書いて頂き2点欄を行っている。					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	過去に研修は行われているも、全職員が理解しているとはいえない。					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	パンフレットによる情報提供は行っていない。相談に乗るなどの支援は行っているも、過去相談に来られた方はいない。					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	頻りに利用される利用者様はおられないも、その都度連携が取れ様になっている。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	緊急マニュアルはあるも、全職員が周知しているとは言えない。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的な訓練は行っていない。応急手当や初期対応は経験者や、協力医に不定期に教わっている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書、ヒヤリハット共にできており、スタッフ会にて事故・事故の一手前の事例があった場合話し合いを行っている。又、事例があった際、その都度職員間で話し合ったり、職員会で挙げ再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	状態を日々個別に記録しており、食事前に異常があれば食事の時間をずらしたり、転倒のリスクがある場合には話し合い事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	マニュアルを作成していない。又、職員が理解し、適宜対応方法についても検討していない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情があった場合は速やかな対応を心掛けている。また、東温市役所介護長寿課にも報告・相談している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があった場合、話し合いを行い速やかに検討・対応を行い、前向きな関係作りを行っている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	毎月第2月曜日に相談員2名が訪問し、利用者一人ひとりに声掛けし、意見、要望、困っていること等を聞いてもらったあと報告してもらっている。			○	運営推進会議に出席する利用者は「食事が美味しい」など感想を言っている。介護相談員を受け入れている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	東温市のガイドブックに「苦情・相談窓口」を記載している。また、玄関にも意見箱を設置しており、毎月第2月曜日に相談員2名が訪問し、意見、要望等を聞いてもらえることを伝えている。	◎		○	運営推進会議に参加する家族は機会がある。年に1〜2度、家族アンケートを実施している。
		c	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	東温市のガイドブックに「苦情・相談窓口」を記載している。また、玄関にも意見箱を設置しており、毎月第2月曜日に相談員2名が訪問し、意見、要望等を聞いてもらえることを伝えている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつけている。	○	意見・要望があればその都度相談に乗っている。又、年に数回ある親睦会でも聞く機会を設けている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	常に機会を設けてくださっている。又、月に1度の職員会や年に数度の親睦会にも積極的に参加され、話し合いをする機会を設けてくださっている。				○
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	職員に対し、事業所のサービスの質の確保・向上を目的とすることを説明したうえ、自己評価に取り組み、よりよいケアが提供できるよう努力に努めている。				運営推進会議で評価結果や目標達成計画について口頭で報告している。今回の家族アンケート結果から「評価結果について知らない」という人もいることが分かる。今後は、報告の方法やモニター役になってもらう取り組みなどについて工夫してほしい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	評価結果を事業所内で周知しようとするも、全職員が理解しているとは言えない。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	×	目標計画を作成されているも、個々の認識の違いから事業全体で取り組んでいるとは言えない。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	評価結果と目標達成計画を、運営推進会議で報告し、また、ご家族にも送っているも、今後の取り組みのモニターはしてもらっていない。	○	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	運営推進会議にて報告している。又、事業所の玄関に、ファイルに綴じ誰でも閲覧できるようにしている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	防災委員を物を各事業所に一名ずつ作り定期的に集まり、マニュアル作成、修正を行っている。				近所の人が緊急電話連絡網に加わっている。今後、運営推進会議などを通じて、地域との協力体制をすすめてほしい。また、地域の防災訓練に参加したり、事業所の避難訓練に地域や家族の参加・協力を呼びかけてはどうか。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	マニュアルに基づき、日中の時間帯には出来ているも深夜帯や明け方の職員が少ない時間帯は行っていない。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	避難経路の地図や、備品の数、賞味期限などは記録し職員が確認できる場所に保管している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	地域の方、他事業所とは連携を摂れているが、消防署とは防災訓練の際に話し合いを行っているのみで、連携はとれていない。	△	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	地域の方の訓練は行っていない。法人内では半年に一回以上消防に協力して頂いて合同訓練を行っている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	時々、運営推進会議で認知症についての情報を発信している。又、法人内で地域のかたも参加できる研修という形で行っている。				地域の人から相談を受けることもあるが、機会は少ない。管理者は、事業所を地域の高齢者の憩いの場にできるような取り組みをすすめていきたいと話していた。  地域の中学校の体験学習、高等学校の介護実習を継続的に受け入れている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	運営推進会議の際、相談されるのみで、相談支援としては行ってはいない。		○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	出来ていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	高校などから年に一度一週間ほど実習に来られる。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域包括センター主催の認知症行方不明者捜索の訓練に参加している。			○	